

副会長挨拶

東山会 副会長

新美 智秀

昭和 52 年卒業(第 36 回)



ご挨拶

平成 26 から 27 年度の副会長を拝命し、杉田雄二会長、巨陽庶務理事を初めとする理事の方々と東山会の行事にかかわらせていただいております。

東山会では、関東および関西支部総会、イブニングサロン、東山賞授与と新入会員歓迎会が毎年開催され、2 年に一度新年同窓会が開催されています。現在、平成 28 年 1 月 9 日開催の新年同窓会に向けて準備をしております。今回は昨年ノーベル賞を受賞された天野浩先生に特別講演をお願いしております。奮ってご参加いただければ幸いです。ところで、東山会の維持・運営には庶務、会計、会報（ご覧のホームページ）などに関する様々な業務があり、若い教員にもかなりの負担になっております。通常の教育・研究業務以外に、これらの業務を順番とは言え、ボランティアで活動していただいていることを、どうぞご理解いただきたく存じます。

昨年は、赤崎先生と天野先生のノーベル物理学賞の受賞で、名古屋大学は大いに盛り上がり、連日の報道で工学研究科の知名度をかなり高めていただきました。ご存知の通り、21 世紀に入って日本では 11 名の方がノーベル賞を受賞し、そのうち 6 名の方が名古屋大学の関係者です。これまでは理学部の先生方でしたが、今回の赤崎先生、天野先生は工学部ですので、特にうれしく思っております。いろいろな場面で、なぜ名古屋大学はノーベル賞受賞者が多いのかと特集が組まれました。前総長の浜口先生は「自由闊達」がキーではないかと説明されています。名古屋大学には門がない、外に開いており、だれでも入って来られます。また、テレビのニュースでご覧になった方もおられると思いますが、天野先生が帰国されたときに学生たちが、中部国際空港で「天野先生とか、天野教授おめでとう」ではなく、「ひろし君おめでとう」と団扇に書いて出迎えました。この辺が、教員と学生との風通しの良さ、「自由闊達」に結びついているのではないのでしょうか。権威主義に走らず、若い人の考え、アイデアに耳を傾ける名古屋大学全体に通底する指導者の研究姿勢ではないのでしょうか。

天野先生らの開発された青色 LED は省エネルギー、持続可能社会に向けて大きな貢献をされました。名古屋大学はものづくり産業の集積地に位置する総合大学として、この青色 LED の例のように、社会への貢献、地域産業界の活性化への貢

献を目指して、研究を推進しております。機械系学科も、グローバルに活躍できる人材を輩出すべく、研究・教育のさらなる向上に頑張っております。同窓生の皆様におかれましても旧に倍して東山会への一層のご支援を頂ければ幸いです。